

土地の名は中世あるいはそれ以前より近世を通じ現在に至るまで、その土地の風俗・歴史・地形などを様々に表し、そこに住む人々はその名に愛着をもつて生活してきている。そしてその名は近代の合理的な地域の統廃合を重ねて現在に様変わりしている。

地名を名づける時の由来をみると、特に近世において越谷は宿場を除き一部の岩槻藩領・忍藩領の飛地及びその他ほとんどの幕府直轄領が耕地であることから、全てと言っていい「地名」が耕地の位置・形状・作高などに関するところに由来している。しかし残念ながら現在、小名・小字名は橋名・バス停名など一部の名を残しているが、ほとんどが消えてしまっている。

●『耕地』に由来する地名を近世の文献から村名・小名・字名を拾ってみると

- ・耕地の位置や状況から 東田・南田・塚田・深田・砂田・大荒田・三田方・．．．．．
- ・耕地の作高から 九升田・八反田・六反田・四反歩・四斗^{しとまき}蒔・三反割・．．．．．
- ・名前を付けた耕地名 屋敷裏耕地・屋敷前耕地・吉番耕地・四丁野耕地・．．．．．

●この『島』と名のつく地名を探すと意外と多い。この地名でいう『島』という意味は水に囲まれた島ではなく耕地そのものをさすと云われる。(別図1)

(江戸・明治期の村名) Ⅱ現在の大字名

- 中島 (現在の増林地区大字中島) 古利根川と元荒川に挟まれた中の耕地
- 野島 (現在の荻島地区大字野島) 野の中の耕地
- 長島 (現在の荻島地区大字長島) 古い頃の綾瀬川の河道跡に沿った所で、細長い集落をなしていたことから細長い耕地

南荻島 (現在の荻島地区大字南荻島) 元荒川べりの萩(葦の一種)のしげった所の耕地

(江戸・明治期の小字名) Ⅱ現在も不動産登記の住居表示に残っている

- 鯛之島 (現在の桜井地区下間久里) 鯛(魚)の形をした耕地 (別図4)
- 小谷島^{こや} (現在の新方地区大松) 狭隘な低い耕地
- 大島 (現在の新方地区船渡) 大きな耕地
- 大島前 (現在の新方地区船渡) 大きな耕地の前
- 島添 (現在の新方地区船渡) 耕地にそった地
- 飯島 (現在の大相模地区大成町) 上の方にあたる川沿いの耕地
- 中島耕地 (現在の大相模地区東町) 中川にあった島の耕地 (別掲)

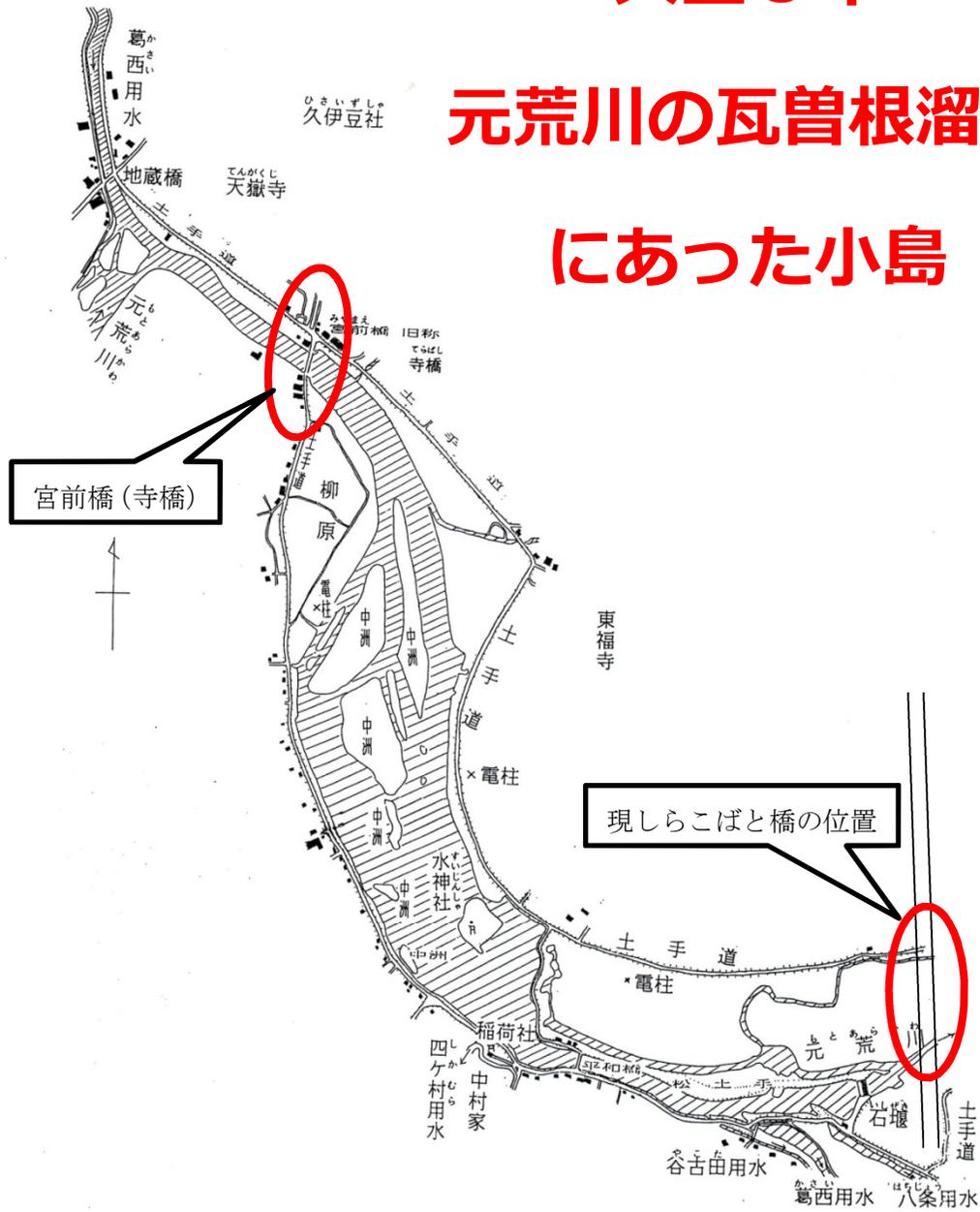
●川に島(中州)があった

- ・元荒川の瓦曾根溜井に「越谷八景」の一つの小島があった。(別図2)
- ・腰巻村(現新川町)付近の綾瀬川に小島があり(現在も有る)、江戸時代「中の島の渡し」という渡し場があった。(別図3)

大正8年

元荒川の瓦曽根溜井

にあった小島

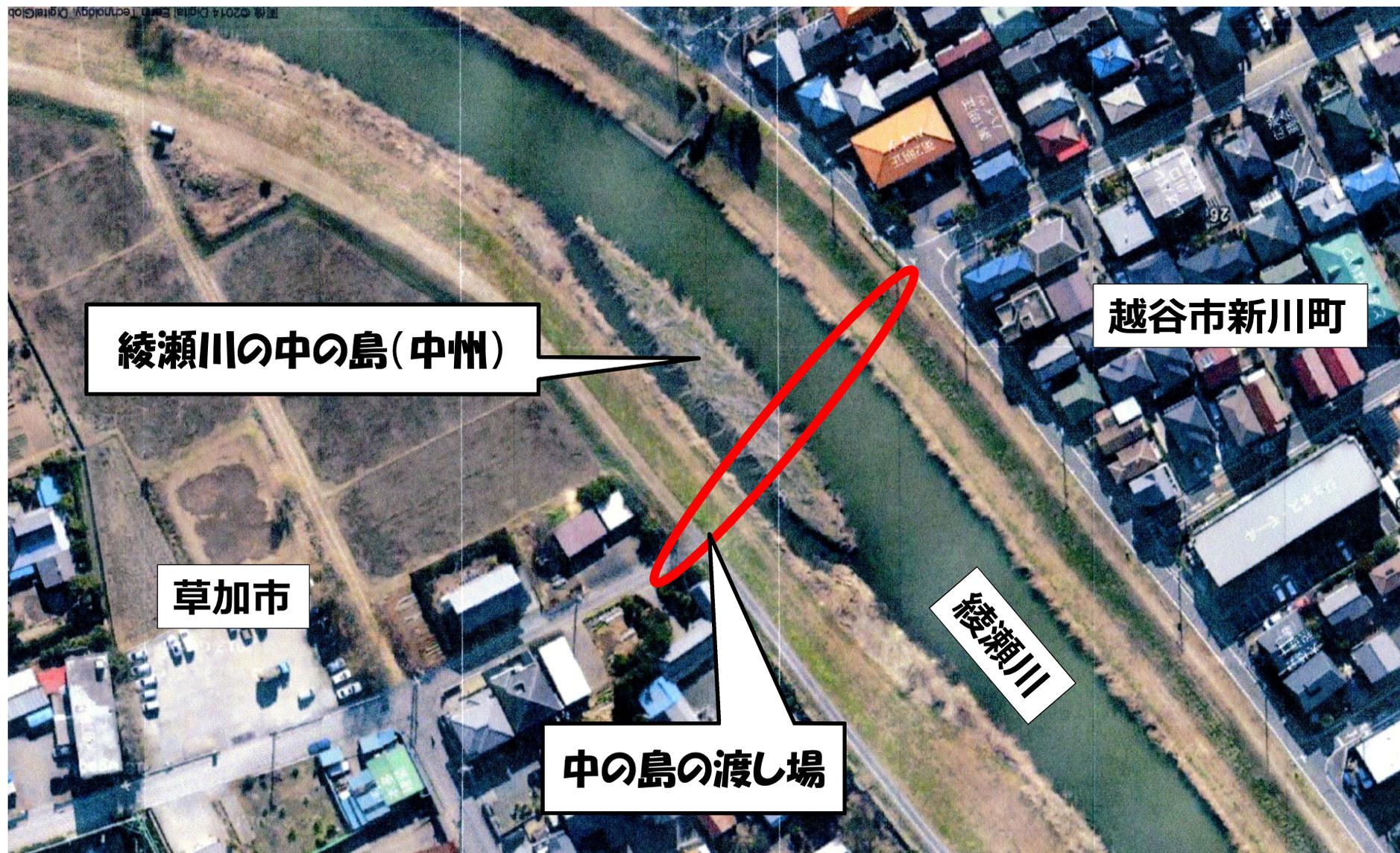


現在の瓦曽根溜井



『埼玉縣北葛飾郡松伏溜井 葛西用水路ヲ経テ 同縣南埼玉郡瓦曽根溜井間
 現状図』(大正八年七月測量製図 鑑定人 木邑富蔵 坂本茂一郎)のうち
 第三号の地図をもとに作成
 作成者 加藤幸一

綾瀬川の中の島(中州)と「中の島の渡し場」



小字名『鯛の島』の地形

(別図4)

